



光輝く未来に 向かって

南三陸町長 佐藤 仁

輝かしい新春を迎え、町民の皆様方にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日ごろから町政の各般にわたり、ご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

平成十七年十月一日に新生「南三陸町」が誕生し、初めての新年を迎えました。顧みますと、平成十三年の旧町時代、町民の皆様により合併の必要性を問いつつ、執行部並びに町議会において、合併その是非について論議を深め、その後平成十五年八月一日に法定協議会を設立し、足かけ二年にわたる数々の議論及び事務手続きを踏まえ、ようやく新町誕生を迎えることができました。その間、町民皆様からの新町への期待を込めたご意見や激励を数多くいただきました。改めて厚く御礼申し上げます。

さて、「南三陸町」は新たな歴史の一歩を踏み出しましたが、町民皆様の多様な行政ニーズに応え、「小さくともきらりと光るまち」であり続けるためには、今後十年間のまちづくりのあり方が大変重要であろうと思っております。

そこで、私は、当面次の四項目を政策の柱として、町政を推し進めることにより、均衡ある町土の発展を目指して参ります。

その一つの柱は、「安全・安心のまちづくり」であります。

町民の生命及び財産を守り、子供から高齢者まで健やかに安心してくらしている環境作りは、行政の第一の使命であると考えると、ご案内のとおり、今後二十年内に発生すると予想される宮城県沖地震に対する備えを、自治体においてどう進めて行くべきかが最大の課題であります。町内の動力水門の耐震化、延命化と共に、新町の地域防災計画を早急に策定させたいと考えております。

また、町民にとって「真に安心して暮らして行けるまち」とは、医療体制の整った町であると考えております。診療体制や財政運営など様々な課題を抱えていることはご承知のとおりですが、私は、住民ニーズの特に高い、この地域医療体制の課題については、住民に信頼さ

れるより良い病院を目指し、鋭意努力して参りたいと考えております。

続いて二つ目の政策の柱は、「南三陸町地域ブランドの確立」であります。南三陸町発展のためには地域ブランドの確立を目指すことが一番であると考えております。特に、「観光のブランド化」は、地の利を生かした施策の展開が可能となりますので、この風光明媚な景観を貴重な財産と受け止め、ダイビングや濁酒特区の活用など新たな付加価値を加えながら、経済の活性化にも結びつけて行きたいと考えております。

三つ目の政策の柱は「住民の目線に立つまちづくり」であります。分権型社会においては、住民の多種多様なニーズに対し常に的確にその情報を入手し、そのニーズが真に行政として成すべき事項なのか、それとも民間や地域が主体となつて成すべきものかを見極める能力が、より一層求められます。したがって様々な政策を推し進める上で、常に住民の目線に立つて、検討して参りたいと考えております。

最後に四つ目の政策の柱は「新町建設計画を基本とするまちづくりの推進」であります。

南三陸町の均衡ある発展と地域経済の活性化を展開していくためには、合併協議においてご決定を賜りました新町建設計画を尊重した町づくりが基本となるものでありますので、財政計画を常に検証しながら、計画を実行して参りたいと考えております。

以上の政策の柱を核として各施策を展開して参ります。

町民皆様のますますのご指導と御協力を賜りますようお願いを申し上げます。本年が町民皆様にとって幸多き一年でありますようご祈念申し上げます。